ワシントン条約COP20参加報告
～国内象牙市場閉鎖についての議論とこれから～

認定NPO法人 トラ・ゾウ保護基金
事務局長　坂元雅行

2025/10/31

2016年、COP17で採択された国内象牙市場閉鎖勧告

ゾウの密猟または象牙の違法取引に寄与する**合法な国内象牙市場**がある国に対して、

一部の品目についての狭い例外を除き、象牙が販売される国内市場を**閉鎖するよう勧告**

2025/10/31

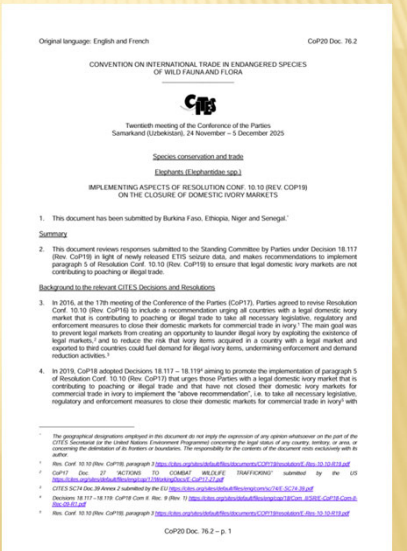
COP18, COP19で決定された未閉鎖国の報告義務

未だ閉鎖をしていない締約国に対して、

市場が確実に「密猟または違法取引に寄与」しないよう、どのような措置をとっているか、**報告を義務づけ**

COP20に提出された議案書

- **未閉鎖国**から提出された**報告書に盛り込まれた措置が**、国内象牙市場が「密猟または違法取引に寄与」しないようにするために**十分なものかどうかを評価**するもの。
- 報告書提出国（地域）：
  EU、インド、日本、ニュージーランド、タイ、南アフリカ共和国、英国、米国、ジンバブエ



Original language: English and French CoP20 Doc. 76.2

CONVENTION ON INTERNATIONAL TRADE IN ENDANGERED SPECIES OF WILD FAUNA AND FLORA

Twentieth meeting of the Conference of the Parties
Samarkand (Uzbekistan), 24 November – 5 December 2025

Species conservation and trade

Elephants (Elephantidae spp.)

IMPLEMENTING ASPECTS OF RESOLUTION CONF. 10.10 (REV. COP19) ON THE CLOSURE OF DOMESTIC IVORY MARKETS

1. This document has been submitted by Burkina Faso, Ethiopia, Niger and Senegal.[1]

Summary

2. This document reviews responses submitted to the Standing Committee by Parties under Decision 18.117 (Rev. CoP18) in light of newly released ETIS seizure data, and makes recommendations to implement paragraph 5 of Resolution Conf. 10.10 (Rev. CoP19) to ensure that legal domestic ivory markets are not contributing to poaching or illegal trade.

Background to the relevant CITES Decisions and Resolutions

3. In 2016, at the 17th meeting of the Conference of the Parties (CoP17), Parties agreed to revise Resolution Conf. 10.10 (Rev. CoP16) to include a recommendation urging all countries with a legal domestic ivory market that is contributing to poaching or illegal trade to take all necessary legislative, regulatory and enforcement measures to close their domestic markets for commercial trade in ivory.[2] The main goal was to prevent legal markets from creating an opportunity to launder illegal ivory by exploiting the existence of legal markets,[3] and to reduce the risk that ivory items acquired in a country with a legal market and exported to third countries could fuel demand for illegal ivory items, undermining enforcement and demand reduction activities.[4]

4. In 2019, CoP18 adopted Decisions 18.117 – 18.119[5] aiming to promote the implementation of paragraph 5 of Resolution Conf. 10.10 (Rev. CoP17) that urges those Parties with a legal domestic ivory market that is contributing to poaching or illegal trade and that have not closed their domestic ivory markets for commercial trade in ivory to implement the "above recommendation", i.e. to take all necessary legislative, regulatory and enforcement measures to close their domestic markets for commercial trade in ivory[6] with

[1] The geographical designations employed in this document do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the CITES Secretariat (or the United Nations Environment Programme) concerning the legal status of any country, territory, or area, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. The responsibility for the contents of the document rests exclusively with its author.

[2] Res. Conf. 10.10 (Rev. CoP19), paragraph 3 https://cites.org/sites/default/files/documents/COP19/resolutions/E-Res-10-10-R19.pdf

[3] CoP17 Doc. 27 "ACTIONS TO COMBAT WILDLIFE TRAFFICKING" submitted by the US https://cites.org/sites/default/files/original/17/Strategic/Sum/E-CoP17-27.pdf

[4] CITES SC74 Doc.39 Annex 2 submitted by the EU https://cites.org/sites/default/files/eng/com/sc/74/E-SC74-39.pdf

[5] Decisions 18.117 – 18.119 CoP18 Com II. Rec. 9 (Rev. 1) https://cites.org/sites/default/files/original/18/Com_II/E-CoP18-Com-II-Rec-09-R1.pdf

[6] Res. Conf. 10.10 (Rev. CoP19), paragraph 3 https://cites.org/sites/default/files/documents/COP19/resolutions/E-Res-10-10-R19.pdf

CoP20 Doc. 76.2 – p. 1

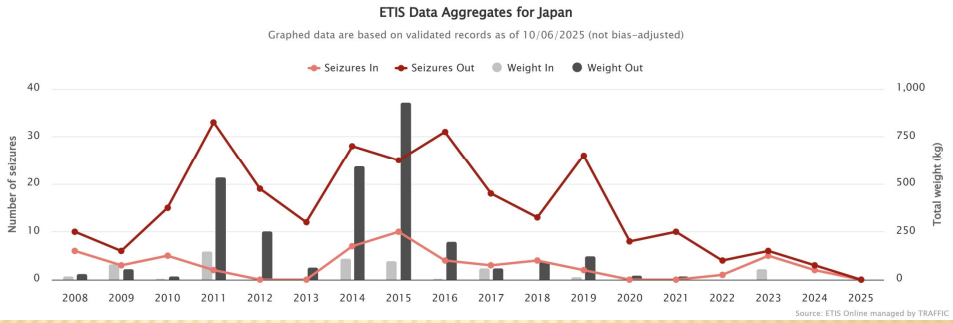
各国の違法取引への関与を示す象牙押収データ(ETISデータ)を引用

- ワシントン条約の「ゾウ取引情報システム」(ETIS)に蓄積された**象牙押収の件数と押収された象牙の重量が国別に示された**。

→**各国の合法市場と違法取引とのつながり**がわかる

→各国がとっている国内市場管理のための措置がどれほど効果的に「違法取引に寄与」することを防げているかを評価するのに役立つ

日本について:日本の関与した象牙押収

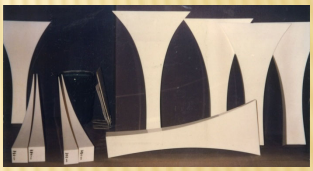


- 象牙の違法取引ルートに日本が登場する押収事例は**無視できない程度に達している**
- **特に日本からの違法輸出が顕著**である
- 日本が関与した違法取引象牙の**多くは、他国で押収されている**(日本サイドでは象牙の流出を防げていない)

日本について：国内市場の規制

- 条約による禁止（1990年）以前に輸入された象牙か、過去に二度（1999年、2009年）、条約で許されて輸入された象牙（を加工した製品）なら、**あらゆるタイプの象牙が合法的に販売できる**

→「一部の品目に対する狭い例外」を除いて閉鎖、という**条約決議のアプローチに反している**。



日本政府による提案への反発

- **ワシントン条約が国内象牙市場閉鎖に踏み込むこと自体が越権行為**だとして、門前払いを求める態度

Calling for closure of domestic ivory market falls outside the CITES mandate. CITES regulates international trade between countries. Recommending measures regarding domestic ivory markets of Parties is beyond its mandate. This point is not only a principle of CITES but has also been repeatedly raised at Conferences of the Parties since CoP17, in response to similar proposals calling for the closure of domestic ivory markets and has been reiterated by the CITES Secretariat[1]. There is no point in repeating the same discussion again.

- 押収事例は無視できない程度に達していることや、品目の限定なしに在庫象牙が広く販売されていることにはふれず
- アフリカ各国に置く在外大使館を通じて、日本に市場閉鎖を求める決定案に反対するよう働きかけ

「国内象牙市場閉鎖」議案の審議

ブルキナファソ、ニジェール、セネガル、ケニア、マリ、ベニン（多くのアフリカゾウ生息国）	「象牙の国内象牙市場は、ゾウの生存に対する妥協の余地のないリスクだ」 「国内象牙市場閉鎖が勧告されてからほぼ10年が経過する中で、未だに合法象牙市場が残されていることに懸念」 「『日本』など未だに市場を閉鎖していない国がある」 「今回の提案書に示された情報は、明らかに関係国が違法取引に寄与していることを示している」
日本（ジンバブエや複数のアジアの国々が支持）	「日本に対する市場閉鎖の要求は、ワシントン条約の権限を逸脱」 「日本はゾウの保全に真剣に取り組んでいる」「日本の国内象牙市場は、厳しい規制によって明確に違法取引に寄与しないものとなっている」 「日本に『妥協はない』」
英国、EU、米国、ニュージーランド	「国内象牙市場閉鎖の推進は『優先事項』」 「象牙の国内取引規制に向けてステップを踏んでいるところ」（ニュージーランド） 日本の意見にはまったく賛同しなかったが、提案には反対

審議の結果

- 日本など特定の国に対する勧告案については、アフリカゾウ生息国以外には支持が広がらず、提案は採択されなかった。
- Cop18, Cop19で決定されていた市場未閉鎖国の報告義務を改めて決定。**引き続き国内象牙市場閉鎖を推進していくことが確認された。**

日本の象牙市場閉鎖のこれから ～2027年種の保存法改正

- 象牙の国内取引規制は、「**種の保存法**」によって行われている。

環境省
Ministry of the Environment

野生生物の保全と持続可能な利用
ワシントン条約と種の保存法

- **抜け穴が多く、ありとあらゆる象牙製品が合法的に売買できる**ことが問題。
- 現在、種の保存法（2017年改正）の**見直しが環境省の下で進行中**。スケジュールが遅れ、**2027年の通常国会に、改正案が提出される見通し**に。

2025年、署名を集めて請願書を衆議院へ提出

- 2025年2月から5月にかけて第通常国会への請願署名キャンペーンを実施（4団体の協力で、広報、署名集め）
- 5月、立憲民主党と自由民主党の衆議院議員の紹介で、**計5,745通の請願書**が、衆議院に受理された。
- 会期の終了とともに、審議未了に。

2025年の成果をベースに飛躍を

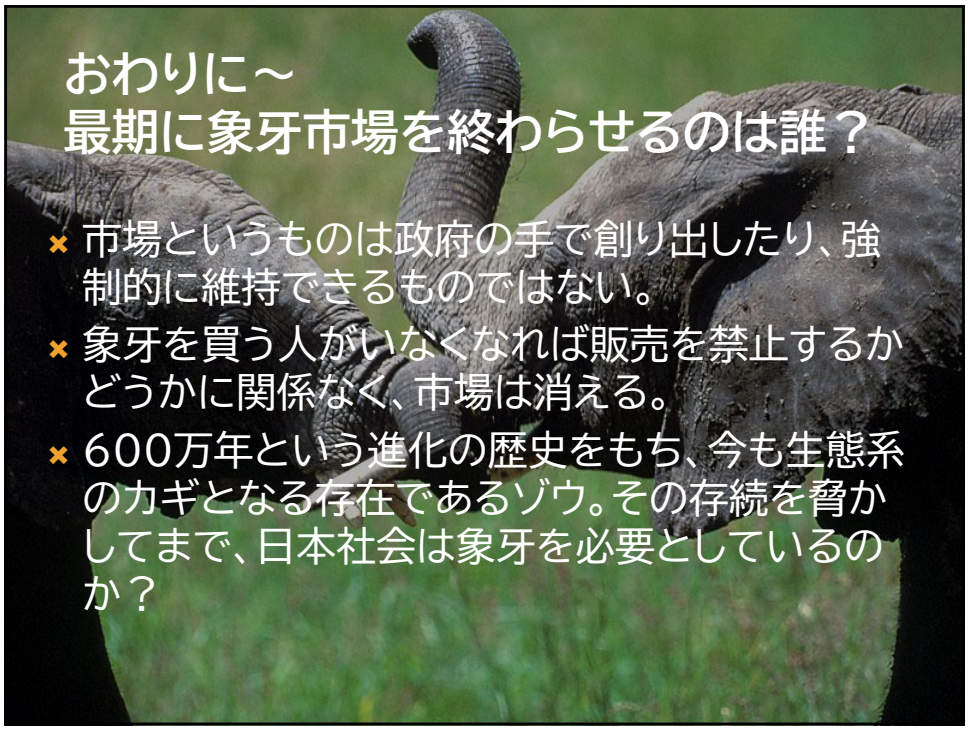
- 与党議員および野党第一党の議員が紹介議員となったことで、**象牙市場閉鎖が日本社会の中で広く賛同を得られるテーマであること**が示された。
- このことは、**環境省・経産省、象牙業界へのプレッシャー**となった。
- 引き続き、国内象牙市場閉鎖（狭い例外を除き、象牙の国内販売を禁止すること）を**2027年種の保存法改正で実現するよう求めていく。**

深刻さを増す、国内象牙取引規制の抜け穴と海外への違法流出防止に対する無策

2025年、国内市場維持を訴える象牙組合のメンバーに対する有罪判決。象牙をマンモス等と虚偽の表示をしたことによる処罰（不正競争防止法違反）。警視庁は、登録業者に課された遵守事項への違反があったことも公表（種の保存法違反）

日本から違法輸出された象牙が、継続して中国などで押収されている（写真は、山西省太原税関による2025年12月発表）。

2027年種の保存法改正では、閉鎖の完全実施に先立つ**緊急的な規制強化**も求められる


おわりに～
最期に象牙市場を終わらせるのは誰？
市場というものは政府の手で創り出したり、強制的に維持できるものではない。
象牙を買う人がいなくなれば販売を禁止するかどうかに関係なく、市場は消える。
600万年という進化の歴史をもち、今も生態系のカギとなる存在であるゾウ。その存続を脅かしてまで、日本社会は象牙を必要としているのか？